

令和２年度 川口市行政評価外部評価委員会 質問・指摘及び回答一覧表

部 会	第一部会	事業コード	43100101
事業名称	クリーン推進員事業	事業担当課	資源循環課

1 第２回外部評価委員会 質疑応答内容

No.	質問及び指摘内容	回答内容	備考
1	1ページ、「1 実施計画事業評価調書」の「2 事業概要」の主な実績に「感謝状贈呈式及び委嘱書交付式参加者数 440人」と記載があるが、感謝状の贈呈者や委嘱書の交付者はあらかじめ決まっているため、この項目は実績にならないと思うがどうか。	感謝状贈呈式及び委嘱書交付式とともに、参加者全員を対象に講習会を実施したため、主な実績とした。	
2	クリーン推進員の報償金はいくらか。	月額1,800円である。	
3	クリーン推進員の主な仕事はどのようなものか。	廃棄物の減量及び適正な処理の普及啓発に関すること、廃棄物の分別及び排出指導等に関すること、集団資源回収並びに環境美化活動の指導及び協力に関すること、廃棄物及び再生利用対象物保管場所（ゴミ集積所）等の調査に関すること、その他市の施策への協力に関することである。	
4	クリーン推進員を知らない市民が多いと思うが、市民に対し、PRは行っているのか。クリーン推進員の存在がもっと市民に周知されていたら、ゴミの処理に関して不明なことがあった場合に、相談できる等、町会活動においても、活動の幅が広がると考える。	環境部で発行している『清掃事業概要』や『清掃のあらまし』等で周知している。	

No.	質問及び指摘内容	回答内容	備考
5	7 ページに記載のある活動報告書の提出率について、提出率が60%後半で推移しているが、この数値について、担当課ではどのように受け止めているのか。	資源循環課でも提出率が低いと認識していることから、報告書の提出を促す旨の通知をクリーン推進員全員に今月郵送し、報告書の回収率アップに努める予定である。	
6	1ページ、「1 実施計画事業評価調書」の「5 視点評価」について、「必要性」を満点としているが、どのような客観的な基準をもって満点としたのか。	クリーン推進員より提出された報告書を基に、ゴミに関する問題について対処していることも含め、「現在の市民ニーズ」については、「必要性」が「高かった」と判断した。また、各町会よりゴミ集積所の不法投棄等についての報告もあり、環境美化の向上にも協力いただいているため、「市関与の必要性」や「将来的な市民ニーズ」についても「高かった」と判断した。	
7	クリーン推進員は、必要な定員を満たしているのか。	2 ページの下段に、町会単位の定数等について記載している。令和2年4月1日現在では、定員が656名であるところ、実際に委嘱した人数が651名であった。	
8	クリーン推進員の活動のイメージは、どのようなものか。	活動方法については、各町会に一任している。具体的な内容としては、各地区のゴミ回収後、クリーン推進員がゴミ集積所を確認し、不法投棄やゴミの出し方等に問題があった場合や事業系廃棄物があった場合、資源循環課へ連絡いただき、対応や指導等を行っている。	
9	町会によりクリーン推進員の活動意欲が異なると思うが、すべて一任か。	活動があまりなされていない町会に関しては、ゴミ集積所が不潔になり、住民からクレーム等があることが多いため、そのような場合には、資源循環課からクリーン推進員に連絡し、状況確認の後、対応や指導等を行ってもらう等の連携を図っている。	
10	ゴミの出し方等がよくないゴミ集積所については、クリーン推進員の責任になるのか。	責任を問うことは行っていない。そのようなゴミ集積所の周辺には、冊子等を配布し、対処している。	

No.	質問及び指摘内容	回答内容	備考
11	2 ページに記載のあるクリーン推進員の定数等について、外国籍の住民の多い西川口や芝園周辺の状況を踏まえずに、単純に世帯数で定員を決めてもよいのか。ゴミ問題の多い外国籍住民が多い地域は、クリーン推進員の定員を増やしてもよいのではないのか。	クリーン推進員の成り手の確保が難しいため、ある一定の基準を設けて推薦いただく方法が良いと考える。委員指摘のそのような地域については、クリーン推進員の活動だけではなく、巡回を多くする等、市による対応も厚くし、対処しているところである。	
12	他市との比較で、「一」とした基準はなにか。無報酬ということか。	「一」は無報酬である。また、さいたま市、熊谷市、春日部市は、活動報告書の提出も行っていない。	
13	カラスネットがない町会もあるとのことだが、配布の状況はどのようになっているのか。	各町会に一任している。歩道上の場合、道路状況によっては設置できない場所もある。町会にゴミに関する助成金を交付しているため、その助成金の中で、町会に対応いただいている。	

2 第3回外部評価委員会にて回答する質問項目

No.	質問内容	回答方法	回答内容
1	クリーン推進員の役割が不明確である。活動状況については、報告書で確認すると思うが、報告書が提出されていない町会の活動状況は、どのように把握しているのか。また、報告書の様式を簡易的にするなど、提出率を向上する方法を模索したほうがよいのではないのか。	説明及び資料	クリーン推進員の任務は、「川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する規則」第10条第1項各号で、「廃棄物の減量及び適正な処理の普及啓発」「廃棄物の分別及び排出指導等」「集団資源回収並びに環境美化活動の指導及び協力」「廃棄物及び再生利用対象物保管場所の調査」「その他市の施策への協力」に関するものと規定されています。 今年度、報告書の提出を促す文書を郵送しました。今後は提出率向上のため定期的に提出を促す文書を送付する予定です。報告書の様式は別紙1のとおりです。

No.	質問内容	回答方法	回答内容
2	従事職員人数を設定した基準はなにか。数値の基準について、具体的に説明してほしい。	説明	従事職員人数は年度当初に作成する事務分担表に基づいています。職員一人当たりの全体の仕事量を1とし、各職員のクリーン推進員事業への負担割合を合計したものが実施計画事業評価調書の従事職員人数の数字となっています。隔年で委嘱式を実施するため、年度ごとに数字に変動があります。
3	クリーン推進員の認知度が低いようである。いつ頃どのように巡回している等、実際の活動状況を具体的に説明してほしい。	説明及び資料	市が作成している冊子①「町会・自治会と市役所」②「清掃事業概要」③「あらまし」の3冊の中で、クリーン推進員の制度を紹介しています。実際の活動状況については町会により異なりますが、基本的な活動内容については、別紙2をご覧ください。
4	事業導入前後比較について、数値や状況の変化等を裏付ける具体的な根拠が必要ではないか。	説明及び資料	新分別収集が始まった平成14年度以降、別紙3の資料にあるように、1人1日当たりのごみ排出量が減少傾向にある要因として考えられることは、別紙4にあるクリーン推進員による新分別収集の広報活動が大きく影響していると考えております。 なお、平成7年度からクリーン推進員事業は開始されておりますが、導入前後の変化を裏付ける数値は把握していないことから、今後は、事業の効果を認識する意味でも、町会へのヒアリング等も含め、導入効果の把握に努めていけるよう検討してまいります。

様式第3号(1)

活 動 報 告 書

年度 期(月、 月、 月)		地区名	処理欄
推進員氏名		第 号	町会名
調査・活動日	場所(ステーション等)	活 動 内 容(該当事項を○印)	
月 日 (曜日)		分別指導・袋指導・排出調査・集団資源回収・クリーン作戦・チラシ等の配布・イベント参加 その他()	
月 日 (曜日)		分別指導・袋指導・排出調査・集団資源回収・クリーン作戦・チラシ等の配布・イベント参加 その他()	
月 日 (曜日)		分別指導・袋指導・排出調査・集団資源回収・クリーン作戦・チラシ等の配布・イベント参加 その他()	
月 日 (曜日)		分別指導・袋指導・排出調査・集団資源回収・クリーン作戦・チラシ等の配布・イベント参加 その他()	
月 日 (曜日)		分別指導・袋指導・排出調査・集団資源回収・クリーン作戦・チラシ等の配布・イベント参加 その他()	
月 日 (曜日)		分別指導・袋指導・排出調査・集団資源回収・クリーン作戦・チラシ等の配布・イベント参加 その他()	
月 日 (曜日)		分別指導・袋指導・排出調査・集団資源回収・クリーン作戦・チラシ等の配布・イベント参加 その他()	
月 日 (曜日)		分別指導・袋指導・排出調査・集団資源回収・クリーン作戦・チラシ等の配布・イベント参加 その他()	
月 日 (曜日)		分別指導・袋指導・排出調査・集団資源回収・クリーン作戦・チラシ等の配布・イベント参加 その他()	
月 日 (曜日)		分別指導・袋指導・排出調査・集団資源回収・クリーン作戦・チラシ等の配布・イベント参加 その他()	
月 日 (曜日)		分別指導・袋指導・排出調査・集団資源回収・クリーン作戦・チラシ等の配布・イベント参加 その他()	
月 日 (曜日)		分別指導・袋指導・排出調査・集団資源回収・クリーン作戦・チラシ等の配布・イベント参加 その他()	

注1) 活動報告は、推進員として活動したことを記入してください。

注2) 3か月単位で提出してください。

活動記錄特記事項

1 町会又は自治会関連事項

2 市への要望事項

[illegible]

3 その他

[illegible]

クリーン推進員の活動状況について

ごみステーションでの排出指導・排出状況調査などの具体的内容の一例を記載します。

(1) 一般ごみステーションでは

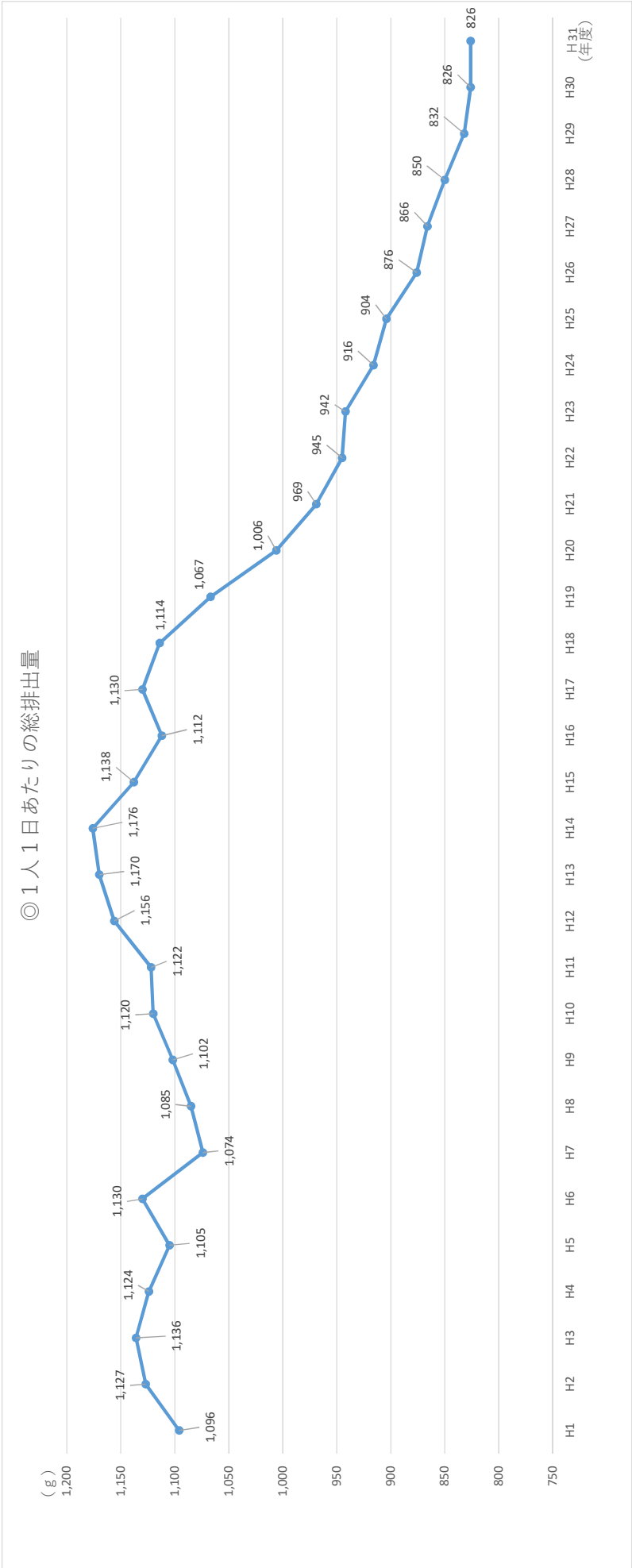
- ①指定以外の袋で出されていないか。
- ②事業系ごみ（黄色半透明袋）が出されていないか。
- ③資源物・有害ごみが混ざっていないか。
- ④粗大ごみが出されていないか。
- ⑤市では収集できないもの（処理困難物）が出されていないか。
- ⑥収集が終わった後、または、収集日以外に出されていないか。

(2) 資源物ステーションでは

- ①正しく分別されているか。
- ②洗浄されているか。
- ③資源物以外のものが出されていないか。

(3) ステーション以外では

不法投棄されているごみはないか。

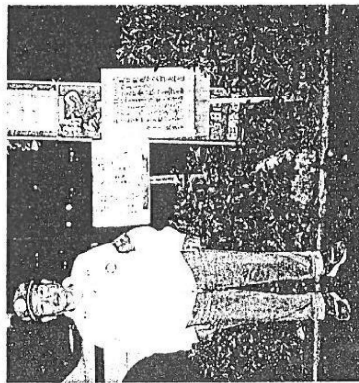


PRESS 530 VOL 21

クリーン推進員さん

川口市クリーン推進員は、ごみの減量化と再利用の推進をはかるために導入された制度で、地域のリーダーとしてごみに関するさまざまな問題に取り組んでいただいています。

前川3丁目町会



「ここ半年間、違反ごみは全く出されません」と語る若林さん

「ごみの出し方のルールはみんなに守っていただきたいもの。そこで前川3丁目町会では、一般ごみ・資源ごみの収集日に、町内各担当ブロックの早朝巡回を実施するほか、週2回、夜の一般ごみ排出指導を行っています。夜、ごみを出す方に「ごみを出すのは当日の朝で、8時30分までに出すのがルールです」とお話すれば、その場で理解し

ていただけるとのこと。今では、夜にごみを出す方はほとんどいなくなっただけです。」

——地道な努力の成果です。

前川3丁目町会DATA

設立：昭和38年 世帯数：1,300世帯
町会長：熊木幸太郎さん
クリーン推進部長：相川洋次さん
クリーン推進員：江崎甲子郎さん
若林通正さん 金子勝利さん
高橋義男さん

東慈林町会では市内の町会としては比較的小さな町会ですが、そんな特性を生かしたきめ細やかな活動をしています。

その一例がカラスよけネット。町内の工務店さんから寄贈されたり、町会で購入したネットが、すべてのごみステーションをカバーしています。カラスもこれにはお手上げ。今ではすっかり退散したそうです。

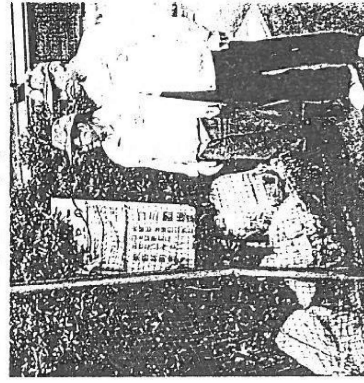
今後は、資源ごみや市境にあるステーションでの分別排出指導に重点を置くと、意欲的に語っていらっしゃいました。

それにしても、早朝6時から

東慈林町会DATA

設立：昭和41年 世帯数：260世帯
町会長：目崎春市さん
クリーン推進部長：宇津木甲作さん
クリーン推進員：町会長兼任

東慈林町会



「他町会の良い所を、とんとん取り入れたい」と語る目崎さんと宇津木さん



川口市 家庭ごみの分け方・出し方

平成14年12月から

新しい分別収集システムが始まりました！

保存版



問い合わせ

平成14年12月から

ごみまる

◎ごみの処理事業の企画・計画・指導・相談、不法投棄に関すること

※廃棄物対策課 TEL.228-5370

◎ごみ減量・リサイクル・広報に関すること

リサイクルプラザ TEL.228-5306

◎家庭ごみの収集に関すること

収集業務課 TEL.251-1174

粗大ごみ受付専用ダイヤル

TEL.251-1111

◎自己搬入（ごみの持ち込み）に関すること

戸塚環境センター TEL.295-0131

朝日環境センター TEL.228-5300

リサイクルプラザ TEL.228-5306

搬入物によって受け入れ施設が異なりますので、ご確認ください。

※廃棄物対策課については平成14年11月11日から表記の電話番号に変わります

12月からのごみの分け方・出し方

分別品目	収集回数	ごみ出し容器等	出す場所
一般ごみ	週2回	透明又は白色半透明袋	一般ごみステーション
有害ごみ	週2回	透明袋	一般ごみステーション
粗大ごみ	電話申し込み随時		各戸収集
びん	月2回	透明袋	資源ごみステーション
かん(飲料かん)	月2回	透明袋	資源ごみステーション
金属類	月2回	透明袋	資源ごみステーション
ペットボトル	月2回	透明袋	資源ごみステーション
繊維類	月2回	透明袋	資源ごみステーション
紙パック	月2回	直接「ひも」でしばる	資源ごみステーション
新聞紙	月2回	直接「ひも」でしばる	資源ごみステーション
雑誌・雑紙	月2回	直接「ひも」でしばる	資源ごみステーション
段ボール	月2回	直接「ひも」でしばる	資源ごみステーション
紙製容器包装	月2回	直接「ひも」でしばる	資源ごみステーション
プラスチック製容器包装	月2回	透明袋	一般ごみステーション

資源ごみ

変更になったところ

新たに加わったところ

令和２年度 川口市行政評価外部評価委員会 質問・指摘及び回答一覧表

部 会	第一分会	事業コード	35200801／35200232
事業名称	文化財センター施設運営費／ 郷土資料館施設運営費	事業担当課	文化財課

1 第２回外部評価委員会 質疑応答内容

No.	質問及び指摘内容	回答内容	備考
1	1 ページ及び2 ページの「1 実施計画事業評価調書」の「5 視点評価」について、両事業とも、「必要性」を満点としているが、客観的に市民ニーズを測った方法はなにか。	来館者に対して、アンケートを行っている。アンケート結果を基に、幅広い層の方に親しみやすい施設となるよう、常日頃模索している。	
2	来館したことのない市民へのアプローチは、どのように行っているのか。	広報かわぐちや市ホームページ、SNS 等で周知し、来館者の増加を図っている。	
3	8 ページ、「7 今後の施設のあり方について」について、「施設の老朽化により、移転や集約化が課題となっている」との記載があるが、老朽化とともに検討すべきなのが、両施設とも交通の便が悪く、駐車場も少ないため、集客が限られてしまうという点である。移転や集約化となった場合、利便性の良い川口駅周辺に移転したほうがよいと思うが、担当課ではどのように考えているのか。	今後、移転となった際には、利便性の高い場所への移転や両施設の統合について、検討していかなければならない。	
4	時期は検討しているのか。	未定であるが、適地があれば早めに検討したい。	

No.	質問及び指摘内容	回答内容	備考
5	5 ページ、「4 企画展 委託概要（郷土資料館）」について、来場者数と比較し、委託金額が高額な企画展がある。費用対効果については、どのように考えているのか。	企画の内容によっては、委託金額が高額なものがあるが、職員のみに対応となると、手間と人件費がかかるため、委託のほうが適正と考えている。費用対効果についても、より多くの方に来館いただけるよう、周知方法について検討していく。	
6	『今、思い出す。懐かしいあの頃の暮らし～昭和の遊び（おもちゃ）を中心に～』の来場者数が少ない理由は、新型コロナウイルスの影響により開催期間を短縮したからか。短縮していなかったら、もう少し集客は望めたか。	そのように考えている。3月末までの開催の予定であったため、開催期間を短縮していなければ、来場者数は、もう少し見込めたと思う。	
7	委託先の選定については、どのように行っているのか。	指名競争入札を行っている。また、金額によっては、見積合わせにて対応している。	
8	4 ページ、「3 各施設のイベント内容（令和元年度）」について、「（1）文化財センターのイベント内容」のうちNo.2の「夏休み子ども体験教室」の参加人数が少ないのではないか。募集定員もあらかじめ、少なめなのか。	当該イベントは、古文書解読等の専門性のある内容のため、募集人数をしぼり少人数で実施している。	
9	夏休みの子ども体験のテーマとしては、古文書の解読は難しいのではないか。	例年、大人向けに行っているイベントであるが、古文書を解読できる人材が不足していることへの将来的な危惧もあり、昨年度、子ども向けの開催を試みたところである。参加者には、非常に好評であった。	
10	文化財をはじめとした専門性を求められる事業の担当者が陥りがちな点として、専門性を重視して、多くの人に馴染んでもらうという視点を忘れてしまう傾向がある。多くの人が楽しめるようなイベントを企画する等の工夫はできないか。	小中学校にイベントの案内チラシを配布しているほか、歴史教室の出前授業等を行い、実際に文化財に触れてもらう等、文化財に馴染みやすい環境づくりを行っている。	

2 第3回外部評価委員会にて回答する質問項目

No.	質問内容	回答方法	回答内容
1	施設の移転と集約化について、検討中とのことだが、移転場所については、駅前等の利便性の高い場所が良いとの意見が多かった。また、文化財センターと郷土資料館の違いが不明確であるが、将来的に統合についてはどのように考えているのか。	説明	現在の立地条件は、両施設ともあまり良くないことは理解しており、移転の際は、統合も含めて、利便性の高い場所となるよう考慮する。
2	多くの集客があったイベントもあるため、的確に市民ニーズを把握し、イベントを企画すべきである。イベント企画に関する基本的な考え方があれば、提出してほしい。担当者がやりたいテーマだけでなく、来場者がやってみたい、行ってみたいという視点から企画を考えることが重要である。	説明	イベントを企画するうえでの基本的な考え方としては、本市の歴史や文化を広く周知することを主眼に置きながら、毎年度企画展等を開催している。また、今年の夏休み期間中には、小学生向けのクイズを作成し、答えた児童に「勾玉づくりセット」を配布するほか、夏休みの学習相談として「スタディ・サポート」を行う。今後とも、市民のニーズに合った内容でイベントを企画するとともに、市民参加型のイベントを催すなど、来館者の集客に繋がるよう、取り組んでいく。
3	広報かわぐちやホームページへの掲載、学校へのチラシ配布等の一方的なPRでは、集客が難しい。PRに関してもう少し工夫が必要であると感じるが、この点についてどのように考えているのか。	説明	現在、文化財資料を活用して、自宅で楽しく学べる学習コンテンツを作成し、ホームページに掲載するとともに、全国各地のミュージアムが参加している「おうちでミュージアム」にも登録し、閲覧数の増加を図りながら、来館者増に繋げる取り組みを行っている。また、イベントの際には、各公民館、各図書館、埼玉高速鉄道各駅等にポスター掲示及びチラシの配布を依頼するなど、今後も集客に結び付くようPRに努めていく。